

〔国際会議開催〕

申請者	東京農工大学 教授 田中 聡久	2215006
国際会議名称	Asia-Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference	
開催期間	2021 年 12 月 14 日～12 月 17 日	
開催場所	KFC Hall & Rooms（東京・両国）	
申請者の役割	共同実行委員長	

概要：

今回の APSIPA ASC では、東京両国・KFC ホールの本会場に 4 セッション会場、gather.town にオンライン会場を設置して、バーチャルな会場を設置した。本会場からのハイブリッドセッションは、通信・音響についての障害も特に発生することがなく、今回の開催で得られた知見は、今後の国際会議開催の良い例になると考えられる。

コロナ禍にも関わらず、国内外から 440 件を超える論文の投稿があった。これは、APSIPA ASC 始まって以来の記録である。厳正なる審査の結果、343 編（日本国内 143 件、国外 200 件）の論文が採択された。採択率は 67.5% である。

会議の内容としては、信号情報処理分野の世界第一線の研究者が一堂に会し、最新の研究成果や関連する産業分野での新展開について議論する場を提供できた。信号情報処理は、情報通信分野で欠かせない位置を占めており、研究領域は多岐に亘る。本会議の扱う分野は、音声・音響処理、画像処理、信号処理実装技術、通信信号処理、機械学習、生体信号処理、セキュリティ技術と、それらに関するシステムなど、IoT（Internet of Things）や人工知能技術などに関する研究、近未来のスマート社会に向けた研究開発関連の発表が数多くあった。

新型コロナウイルス感染症対策でハイブリッド開催を余儀なくされた。オンデマンドセッションでは、時間を設定して、ライブで質疑応答するような仕組みを作ったが、どうしても議論の盛り上がりにつなげるのが困難であった。今後は議論をハイブリットでも活発になる仕組みを継続して検討する必要がある。今回の会議で構築したハイブリッド会議用のプラットフォームは、今後の多くの国際会議の運営でも利用できると考えられる。